

満たされるのは 空腹のお腹だけではありません！

アメリカの感謝祭の贈り物「ラブ・ボックス」募集！



あなたの優しさは、子どもたちの心にずっと残ります…特に、この季節の優しさは。

感謝祭は、アメリカ人にとって大切なお祝いの場で、家族でごちそうを食べて祝います。

今年の感謝祭も、一人として取り残される子どもたちがいないように。子どもたちがラブ・ボックスを受け取れるよう、ご協力ください。

—ビル・ウィルソン

地味な食料品の箱がもたらす喜びの大きさを目の当たりにすると、謙虚な気持ちになります。特に、日頃は無口で人見知りの5人の子どもたちが思わず喜びを表現したときはなおさらです。世界一の経済大国にあるこの大都市ニューヨークでも、メトロ日曜学校に通う多くの子どもたちにとって、1日3回しっかり食事をするのは贅沢なことなのです。

ニューヨーク・ブルックリンのベッドスタイ地区に住むフランクリン家の5人きょうだいも、それが贅沢であることはわきまえています。薬物中毒の母親は数年前に家を出て行ったきりですし、父親が一人で苦勞して働いていますが収入は子どもたちを養うにはとても足りません。節約に節約を重ねて、持ち物も大事にしていますが、3人の女の子と2人の男の子が食べる量を十分準備できないこともしばしばです。

栄養不足は子どもたちにさまざまな悪影響を及ぼします。授業に集中できない、免疫力の低下、さらには精神疾患にもつながりかねません。フランクリン家の子どもたちは学校でからかわれ、いじめの対象にもなっています。毎週日曜学校にやってきましたが、そこでも引っ込み思案で、他の子たちと関わることはほとんどありません。

しかしこの子たちがラブ・ボックスを受け取った瞬間、全てが変わりました。誰かが自分たちのことを思ってプレゼントしてくれたことへの驚きを隠せず、あまりの喜びで、家に帰るまで箱を開けるのを待ってられない様子でした。

子どもたちばかりでなく父親も含めた一家全員が、何日間も空腹を覚えずに済みました。そして今、この家族は、扉の向こうへと世界が大きく広がっているを感じています。その中には

アメリカツアー10月4日！

3ページの案内をご覧ください。

ラブ・ボックス！

10月10日お申し込み切です

詳細は同封の申込書をご覧ください。

今月号の目次

- P2…ラブ・ボックスご案内／フィリピンのクリスマスカード
- P3～4…アメリカツアーご案内／折りの輪
- P5…フィリピン給食支援募集／今月のデボーション
- P6…日本事務所からのお知らせ

前ページからの続きー

あなたのような思いやり豊かな人々も含まれています。メトロに協力してくださるあなたのお陰で、家族全員がキリストの体による愛の行ないを知ることができたのです。

今年の感謝祭、心とお腹を満たす活動にご協力いただけないでしょうか。物価の高騰により、私たちの助けが必要な子どもたちすべてにラブ・ボックスを届けることは以前にも増して困難になっていますが、あなたの思いやりがあれば受け取れない子どもをゼロにすることができます。

多くのラブ・ボックスを贈ってくださることで、この感謝祭の時期に飢えた心とお腹を満たしてあげることができるのです。

きっと「贈ってよかった」と思うことでしょう。そして彼らも「贈っていただいてうれしい」と思うことでしょう！



1 箱 4,500 円
締め切りは 10 月 10 日です。

11 キロのラブ・ボックス
箱の中身は？

感謝祭用の七面鳥/七面鳥に詰める具材/マッシュポテト/
野菜の缶詰/米またはパスタ/リンゴピューレ
子どもの家族が1週間食べられる食料品の入ったラブボックスを贈ることができます。



フィリピンのクリスマスカード受付中！

ご自分のサポートしているフィリピンの子どもへのクリスマスカードをお送りください。

ご自分の子どもまたはその家族宛でお願いいたします。
現地スタッフが個人情報などがいないか確認しますので、封は開けておいてください。

日本事務所への受付締め切りは、10月21日(月)です。

日本語でお書きいただいたものは、ボランティアのスタッフの方が英訳します。

ヘアピンやシール、しおりなど、定型サイズの封筒（縦横 23.5cm x 12cm x 厚さ 1cm、手紙を含めて 25g 以内）で収まるものは同封いただけます。

クリスマスカードが手に入らない場合でも、グリーティングカードや手作りのカードでも結構です。

自分宛の手紙など受け取ることはない子どもたちです。
きっと喜んでくれますので、よろしくお願いいたします。

*フィリピンのスポンサー以外の方からは受付できません
のでご了承ください。



アメリカツアー参加者募集！



メトロ本部の現地ツアーを開催します。

詳細につきましては、参加人数などによって変わってきますので、ご希望の方は、お早めにご意向をお知らせください。

ビル先生が本部にいる日程で、土日祝日を含むスケジュールを組みましたので、前後少々お休みを取っていただければご参加いただけると思います。

メトロの本部での滞在も1泊は入れる予定ですので、本部のスタッフや各国からのインターンの皆さんとの交わりの時間も取ることができます。メインはスラム街の子どもを対象としたメトロの活動の見学、子どもとの面会ですが、合間で観光も入れる予定です。

アメリカの子どもをご支援いただいている皆様は、子どもと直接会い、生活環境を知るチャンスです。

日程：2019年10月31日(木)～11月5日(火)(予定)

発着地：関東地方

金額：現地への献金を含め25万円程度

内容：現地の教会学校を見学、ミーティングへの参加、スタッフの活動に同行、子どもとの面会、礼拝参加、観光など

締め切り：10月4日(金)ですが、できるだけ早くご連絡ください。

催行人数：4名～16名(先着順とさせていただきます)



共に祈っていただけませんか

もし、あなたがそこにいなかったら…？ いないとすれば理由は何でしょうか。食事、会合、卒業式、結婚式…いくらでも挙げられるでしょう。しかし、なぜ、そこにいられないのでしょうか。あなたがいない時に誰かが切実に何かを必要としていたら、どうなるのでしょうか。

あなたが実際にそこにいても、誰も何も必要としていないとすれば、こんな問ひかけは意味のないものになるのでしょうか…



数週間前、ハーレム地区のアパートで火災があり、2人の大人と3歳から11歳の子ども4人の命が奪われました。この子どもたちは熱心に日曜学校に通っていましたから、私たちとは大変親しい関係にありました。ハーレム地区担当者はこの1年で子どもたちと緊密な関係になり、さらにはこの子どもたちを主に導くこともできたのです。

ハーレム地区担当リーダーのアシュリーによれば、最後に子どもたちと会った時、亡くなった女の子の一人が「私のおもちゃを日曜学校で使って欲しいな」「日曜学校に来られてすごうれしい」「日曜学校、大好き」と言っていたそうです。それが、この子どもたちにとって最後の日曜学校になるなんて、誰が想像できたでしょうか。次にハーレム地区に行った時に目にしたのは、焼け落ちたアパートと、葬儀場に並べられた6つの棺(ひつぎ)でした。彼らについていろいろ想像することはできますが、真実は



火災の前の週、日曜学校のあとで。
この日が最後の別れとなった。

わかりません。ただ、確実に言えるのは、メトロの日曜学校があったからこそ一つの家族が天国に行かれたということです。その家族を愛し、キリストを伝えられた…それも毎週、活動している日曜学校があったからなのです。また、もし、この人たちがそこにいなかったらどうなっていたでしょうか。



かつて、私が初めて銃撃された直後のことです。私の日曜学校送迎バスの担当地域に住んでいる男の子が、日曜学校が始まる直前に自宅を飛び出して教会に駆け込んできました。私はちょうどバスを発車させようとしていたのですが、その子はバスのステップを飛び越えて運転席に入ってきて「ビル先生！ 僕、わかってたよ！ 嘘だってわかってたよ！」と叫ぶように繰り返しました。「何が？」私が聞くとその子は腕を私の首にかけて言ったのです。「みんな、ビル先生は死んだって言うんだもん！ でも僕はわかってたよ、そんなの嘘だ、って。だってビル先生は、まだまだバスを運転しなきゃならな



いんだから」。しかし、もしそこに私がいなかったらどうでしょう。その子はどこに行けばよかったのでしょうか。この小さな問いには、あまりに大きな運命がかかっているのです。

何十年にもわたって私たちは、ことあるごとに、祈りのパートナーである皆さんに祈ってくれるようお願いしてきました。何度も何度も。そしてあなたは面倒がらずに、あれこれ考えずにひたすら祈ってくださった…どれほど感謝しているか、今さら申し上げることもないでしょう。この数か月、私は50年の献身生活の中でもっとも長い期間、ツアーに出て福音を語っています。そして同時にこの期間、世界各地でサマーキャンプを開催し、新学期の教育プログラムを実施し、さらに新たな国で日曜学校を開始し、他にも様々な計画を展開しているのです。

この働きに、あなた方一人一人を巻き込みたいと思っています。あなたに、そこにいていただきたいのです。こうしている間にも、あなた方の祈りによって毎週22万9千人を超える子どもたちが日曜学校に集うという働きが実現しているのです！ この数は、すぐに25万人を超えることでしょう。すべて、そこにいて祈ってくださり、献げてくださり、また、思ってもみなかった形で支えてくださるあなたのお陰です！

さて、今、同志であるあなたにお祈りをお願いしたいのは以下の課題です。

- a 私たちと共に神の王国を築き上げていく、さらに多くの戦士と出会えますように
- b さらに多くの子どもたちの人生が里親制度によって変えられるため、各地で私のメッセージが用いられますように
- c 神がこの働きに対して持っておられるビジョンをさらに多くの方が理解できるよう、多くの子どもたちやその家族に手を差し伸べることができるよう
- d 食糧を確保できるように、日々、飢餓や戦争、麻薬や銃撃で死んでいく子の数が減りますように
- e アフガニスタンとイエメンの子どもたちのために現状を改善する方法を見つけられますように

これらはいずれも急を要することばかりで、あなたにも、この緊急性の前に身を置いていただきたいと願っています。あなたには、そこにいていただかなければなりません。数えきれないほどの子どもとその家族の人生が、私たちの手にかかっているからです。どうするかは自分自身で選択することで、私たちは「そこにいる」という選択をしました。この選択を支えてくださるあなたに感謝します。

どこにしようが、私は自らが全力でそこに向かうことをお約束します。この約束は必ず守るということを、あなたはご存じのはずです。感謝します…そこにいていただけることを。あなたが、世界中の子どもたちのために、私のために、私たちの働きのために、祈り続けてくださっていると確信しています。

あなたと共に、ビル・ウィルソン



フィリピンの給食支援のご案内

メトロ・フィリピンでは、現地の教会と協力し、メトロの教会学校を開催したあと、参加している子どもたちに食事を提供しています。子どもたちは、おなかが空いていると口に出しては言いませんが、いつも空腹なのです。そのため、最初は食事に引かれてメトロの教会学校に参加する子どもたちもいるはずですが、きっかけがどのようなものであっても、イエス・キリストの福音を聞くチャンスを与えられるのです。

毎週各地でこの働きを続けるには、多くの必要があります。メトロの関わる子どもたちは、フィリピンに2万人以上いるのです。ご賛同いただけます方に、ぜひご支援をお願いします。

ご支援は、1度でも、毎月継続的に決まった金額をご支援いただくこともできます。



ご支援方法:「フィリピンの給食支援」として、日本事務所にお申し込みください。

1口: 10,000 円

50 人の子どもたちに 1 日分の食事を提供できます。

おひとり何口でもご支援いただけます。

1 回だけでも、継続的にもご支援いただけます。継続的にご支援いただく場合は、口座引き落としをご利用いただけます。

TEL 03-3561-0174, email: metrojapan@mission.or.jp

2019年9月 今月のデボーション by ビル・ウィルソン 見極め、決心、実行

前回のデボーションでは、私たちを取り巻く問題に対し自らが取り組む姿勢を持つことについて考えました。続く今月の課題はこれです。「見極め、決心、実行」。

聖書には「日の下には新しいものは一つもない(伝道者の書 1:9)」とあります。この原則を見てみましょう。第3代アメリカ合衆国大統領トマス・ジェファソンは、当時、アメリカの将来像を鮮明に思い描きつつ、いくら現実的な見通しがあっても展望だけでは意味がないと思っていました。責任ある決心と同時に行動を起こさなければ、アメリカという国家を立ち上げることも、生き残る力を持つ国にすることも不可能だとわかっていたのです。

ジェファソンが書き上げた重要な宣言書は、大陸会議に提出され、採択されました。アメリカ独立宣言です。これに関わった先人たちは、思い描いた将来像の実現に全力を傾け、世界を変えることになるこの発想に人生を捧げたのです。しかし、彼らはまだスタートラインに立ったばかりでした。

アメリカの将来像を見極め、そのために人生を捧げる決心をし…その次に必要なのは「実行」でした。国家構築に向けた実際の行動です。「見極め、決心、実行」。目的が何であれ、この流れは共通のものです。果たして、数年後、数々の闘いと多くの犠牲の末、アメリカはついに勝利を現実のものとして掴み取ったのです。

この原則は私自身の人生にもそのまま当てはまります。「見極め、決心、実行」。この3段階の行動原則を守らなければ、私が成し遂げてきたことは何ひとつ実現できなかったでしょう。あなたも、何らかの発想や夢が心の中で映像となって形作られていくのを経験するはずですが、膨らんでいくビジョンに心奪われ、その思いを消し去ることもそこから逃れることもできなくなります。しかし、それだけでは不十分なのです…ビジョンには命を吹き込まなければ。

あなたの心に浮かんだ発想に対して全力を尽くす決心をしてください。そして、その発想とあなたご自身を神にゆだねましょう。今月は、あなたの心の中に生まれた思いを育て、それを祭壇で神にゆだねる決心をしてください。計画を実行するためには、ビジョンと決心を神にゆだねなければ始まらないのですから。

あなたのしようとすることを主にゆだねよ。そうすれば、あなたの計画はゆるがぬ。—箴言 16章3節

心を込めて

創作者・主任牧師 ビル・ウィルソン

日本事務所からの重要なお知らせとお願い

ホームページと SNS !

ボランティアの皆様のご協力で、メトロ日本事務所のホームページ、Facebook、が大変充実してきました。

また、新しくInstagramも始めました。ご興味のある方は、ぜひご覧くださり、シェアしていただければ幸いです。

アドレスはそれぞれ以下の通りです。

ホームページ：<https://metroworldchild.jp>

Facebook：メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパンで検索できます。

<https://www.facebook.com/metrochildjapan/>

Instagram：MetroWorldChildJapan

！ スポンサー代金改定

メトロ本部では、世界中の物価の上昇に対応するために、子どものスポンサー代金を今年からひと月 5,000 円に変更しています。

たくさんの皆様が、スポンサー代金の引き上げのご連絡をくださいましたことを心から感謝申し上げます。

もし、まだご検討いただいていない場合は、ぜひご検討の上、お知らせください。

ご連絡をいただかずに、自動的に引き上げをすることはございませんので、大変お手数ですが、日本事務所までご意向をお知らせくださいますようお願い申し上げます。

アメリカツアー募集中！

今年のアメリカツアーは、ビル先生が本部にいる日程、10月31日(木)～11月5日(火)までの予定で開催します。

参加ご希望の方は、3ページの案内をご確認の上、お申し込みください。

アメリカの子どものスポンサーの方は、子どもに直接会えるチャンスです。

また、それ以外の方々も、メトロの本部に行き、この働きの原点の場所で、直接活動を見ることができますし、本部ビルの見学や、スタッフミーティングへの参加、道ばた教会学校の見学、子どもの訪問に同行、圧巻の屋内の教会学校を体感し、ほかのツアーでは絶対に味わえないアメリカを体感する絶好の機会です。

日本事務所よりごあいさつ！

日中の暑さの中にも朝夕には秋を感じる頃となりましたが、皆様お元気でお過ごしでしょうか。

メトロの働きは世界各地に急激に拡大していて、ケニア政府から依頼された新しい公立小学校での働きの準備も着々と進められています。一挙に 22,000 人の子どもたちに福音を聞くチャンスが与えられ感謝しています。来月以降にケニアツアーのレポートをお届けします。

日本事務所のスポンサーの数も 600 名を超え、サポートしている子どもの数は 700 名を超えています。心から感謝します。これに伴い、事務作業も増えて複雑になってまいりましたので、複数のボランティアの方々にご協力いただいています。SNS も動き始めました。

ご支援とお祈りに心から感謝し、皆様の上にも主の豊かな祝福をお祈りします。

日本事務所代表 万代栄嗣(まんたい えいじ)



メトロ・ワールド・チャイルド日本事務所

所在地 〒104-0061

東京都中央区銀座 4-5-1

教文館 6 階 TFC 内

電話 03-3561-0174

FAX 089-925-1501

メール metrojapan@mission.or.jp

URL <https://metroworldchild.jp/>



すべてのお振り込みは、同封の郵便振替用紙をご利用いただくか、下記宛にお願いいたします。

ゆうちょ銀行：一六九店 当座預金 0041610

郵便局：記号番号 01650-3-41610

口座名義はどちらも同じ

メトロ・ワールド・チャイルド・ジャパン